
刀神 = いざ、去らば =

と一か。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

刀神「いざ、去らば」

【Nコード】

N9485X

【作者名】

とーか。

【あらすじ】

時代が、変わる。

これは函館戦争で起きた、小さな奇跡。
人と刀の、物語。

嗚呼、嗚呼……。

わたしの主様……。

どうして、どうして……！

どうか早くお目覚めを。そして、わたしを握って振るいなさい。

貴方は武士なのでしょう？ “誠”の武士なのでしょう？

ならば、早くお目覚めを。立ち上がり、わたしをその左腰に差し、戦場に立ちなさい。

彼方遠く、刀に代わる新たなる武器、“銃”の“声”が聴こえる。憎い、憎くてたまらない。

わたしの主様に傷をつけた。愛しい愛しい、わたしの主様に。長きにわたり、共に戦ってきた。主様の腰に在り続けてきた。

主様曰く、今、時代が変わろうとしているらしい。この蝦夷の大地を踏んだときから、主様や主様の部下や上司達が語っていた。

『時代が変わる』

『刀無き武士の時代が来るな』

『終いか』

『終いさ。俺たちは終いさ』

『刀も終いさ。銃が主役となった』

五稜郭と呼ばれる館での会話。

わたしが終わると？主様が死ぬと？ふざけるな。

しかし、いざ戦が始まれば、わたしは役立たずだった……。こうして、主様を傷つけた。

「主様！」

声は届かない。残念ながら、姿も見えない。

わたし達、刀神^{とうしん}は刀に宿りし身。原理は霊に同じ。

靈感の無い人間には触れるも、話すも叶わない。

このまま、主様が冷えてゆくのを黙って見てると!?そう思っている、奇跡が起きた。

「…誰、だ」

「主、様…?」

「なんか、透けてやがるな、お前。黄泉の、使者かなんかかよ……」

「わたし、は……」

なんてことだ!

主人の間際の時に願いが叶うとは!!

「…わたしは、“兼定”。主様の刀にございます」

「俺の、刀?たしかに、俺の刀は兼定という名だが……。んな、馬鹿な」

「主様、どうぞわたしを再び握り、憎き新政府の犬どもを薙いで下さい。銃とやらの弾丸も、耐えて見せましょう……。主様はこんな死に方をされるような器の者ではありません!!さあっ!!」

「いや、無理さ」

「何故!!」

「俺は、もう十分さ。生ききった…いや、生きすぎた。兼定。お前が本当に俺の刀だというのなら、知っているだろう」

「……………」

「俺は、“死に遅れた”んだよ。とつくの昔に死んでるはずだった。うっかり、“誠”を背負ってこんな所まで来ちまったが……。もう、死んでんだよ、本当は。みんなを、仲間を失い始めた頃から……」

「主……」

「それに、これは俺に似合いの死に方さ。これ以上にないってくれえにな」

主様は微笑んだ。

季節外れの雪の空を見て、血まみれの手を伸ばして何事か小さく呟いて、わたしを見る。

役者のような、美しい顔立ち。

それが雪によってさらに映える。

嗚呼　、逝ってしまうのか。

主様はわたしが宿る刀身を一撫でして言った。

「今まで、ありがとう。兼定。お前は、俺の、最高の相棒カタナだった、

よ…。」

「…身に余る光栄っ。ごゆっくりお休みなさって下さい」

こっつして、わたしは主様を失った…。

【願わくば、また再び、貴方の元へ…

…】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9485x/>

刀神 = いざ、去らば =

2011年10月26日20時17分発行